

1年通信

第5号
2012年6月11日

校外学習反省

尾張旭市立旭中学校

この通信は1年生のみなさんと保護者の方々に向けて、編集・発行しています。

楽しかった校外学習

6月6日(水)校外学習では、予定どおりに8キロメートルのハイキングと学習ポイント訪問を実施することができました。

◆よかったこと
・ハイキングコースですれ違ふ人たちに、元気よくあいさつをしたこと↓一般の方が感心していました。

・施設の説明をしっかりと聞けることができたこと↓脇本陣奥谷で説明した方が後で伝えてくれました。

・ハイキングと学習ポイント訪問を全部の班が無事に終えたこと↓行方不明になつたり、大げがをする人がいなかったという事は、地味だけれど大切なことです。

・チェックポイントを制限時間内に通過することができたこと↓しっかりと班行動をとることは、今後の行事でも必要となります。

◆気になったこと
・昼食場所の滝の近くに、旭中生徒の物と思われる弁当のごみがたくさんではない

が、落ちていたこと↓多くの人はごみを持ち帰ることができたと思いますが、一部に残念な人がいるようです。
・妻籠に着いて学習ポイントに寄る前に、買い物をした人たちが一部いたこと↓ルール(学習をすませてから買い物をする)を守れない人たちが増えると、今後の学校行事に影響します。

・携帯電話や携帯音楽プレーヤーをもってきた人が一部いたこと↓室長会が決めたルールを守る気がない人がいるのかな。残念です。

「いろんなことを知った」

6月6日

A組 悠

「もう帰りたい…」前半は坂ばかりで何度もいやだと思いました。急な坂や階段は登つても登つても終わらない地ごくのようでした。そんな思いで着いた男滝・女滝。お弁当は体全体にいきわたるおいしさでした。滝からはなれていても、水しぶきがとんできて、すごく気持ち良かったです。それからは、楽しい

ことばかりでした。班のみんなと自然を感じながら歩き、奥谷では知らなかったことを知りました。店が並んでいる通りでは、まっ茶アイスを食べた。バスも盛り上がり、「この時間がずっと続けばいいなあ」と思いました。食べ物の大切さや上げましてくる友達へのありがたさを知った一日でした。

※自然・友情・歴史を学んだ一日になりましたね。



「春夏“中”冬、やっています」

B組 彩葉

私たちは、馬籠・妻籠に校外学習に行きました。まず、最初に驚いたのは急な坂道です。歩き始めて2キロメートルも行くか行かないかのとこ

ろで、すでにふくらはぎが痛かったです。

名産の栗を使ったソフトクリーム・こへいもち、お土産で買ったキャラメル…。すごく楽しかったけど、一番心に残ったのは、清水屋資料館にかけてあった「春夏中冬」という布です。あれは、「秋ない中」↓「あきないちゅう」、つまり、「店をやっています」という意味だそうです。私はこちら一度、ユーモアのある馬籠・妻籠に行きたいと思えました。

※私は初め分からなくて、かなり悩んだ後、「秋がない↓高い」とか気づきました。

「新しい友達と」

C組 望萌香

馬籠・妻籠まで合わせて、8キロメートルほど歩きました。始めから坂道で、ものすごくつかれました。けれど、新しい友達と「坂道ばかりで辛いね。」とか「辛いけど、一緒に頑張ろう。」という会話をし、交流できたと思います。新しい友達との意外な面が見られたり、前から仲が良かった子とも、さらに仲良くなれました。馬籠脇本陣での文化財見学は、ためになることがたくさんありま

した。今回の校外学習は、私にとつて新しい友達とたくさん交流できる機会となりました。

※この行事をおして、新しい友達をつくってほしいというのが、私たちの一つの願いだったので。

「おいしかったラムネ」

D組 祥子

最初は八キロメートル歩くなんて楽勝かなと思っていたけど、実際歩いたら、一キロメートル歩くだけで、汗がだらだら出てきました。でも、みんなと歩くことができ、楽しかったです。なんととっても、妻籠に着いたあと、みんなでお楽しみ会をしました。みんなでラムネがとってもおいしかったです。今回の校外学習はいろいろなことが学べたし、班の人とさらに仲良く感じた気がします。

※みんな歩いて、みんなでラムネ。ふだんよりも、何倍もおいしく感じるだろうね。

「森林とふれあうことができたハイキング」

E組 咲千花

妻籠までの道のりは長く、つらいものでした。何よりも坂の上り下りが激しく、なかなか目的地まで着きません

でした。でも、森の中を歩くことができ、森林とふれあったり、馬籠から見た下の景色は心をいやしてくれました。お昼休みの滝では水しぶきが飛び、辺りが涼しかったです。森の水だけあって、すごくとう明で歩き通っていました。

妻籠に着いたときは、達成感で心が満たされました。何よりも班の皆で目的地にたどり着けたことが嬉しかったです。このハイキングで様々な体験ができて良かったと思います。

※つらいときほど、できたときの達成感が上がります。何でもあきらめずに、頑張りたいたね。



「馬籠・妻籠をハイキング」

F組 雅彬

ぼくは馬籠・妻籠に行きました。最初は山といっても観光地なので、そうたいしたことではない山だと想像してい

ました。しかし、はじめからすごい急な坂が続く、チェックポイントも坂のちゆううにあり、予想をはるかに超えるつらい坂道でした。みんな笑いが消えました。そして、とうとう念願の昼食タイム。男滝・女滝で、滝が出ず自然の風が疲れをとばしてくれました。とてもこの辺では見られない景色がありました。昼食も終わり、歩いて行くと、とうとう最終チェックポイント。4番に到着しました。脇本陣奥谷に行き、歴史の深さを知りました。馬籠・妻籠はとても楽しかったです。

※馬籠峠までの上りの道。みんなにとっては、未体験ゾーンだったのかな。よい経験になったね。

「楽しかった8キロメートル馬籠妻籠ハイキング」

G組 真海

私たち一年生は馬籠妻籠ハイキングに行きました。8キロメートルを歩くと、知っていたけど、思ったよりつらかったです。行きのバスの中ではみんな元気だったのに、坂を上るのに必死でずっと無言でした。そして、坂を上り終えて下りに入ると、みんな少しづつ言葉が増えてきて、お昼ご飯を食べる場所に着きまし

た。ご飯を食べた後、滝で水遊びをしました。私にとつては、水遊びが一番楽しかったです。水遊びでびしょぬれになったけど、すごく楽しかったです。遊んだ後、気持ちよく切り替えて見学場所に行きました。見学した後、お土産やアイスを買いました。家に帰り、家のことを全部終わらせて、すぐ寝ました。

※みんな、この日はすぐ眠りにつけたと思います。深い睡眠ができましたね。



「つらかったけど、楽しく学べたハイキング」

H組 さくら

最初の坂道では、上を見て「あそこまで歩くのか。」と思いました。そうしている間に、妻籠につきました。妻籠では、「この時代の家にいるとき

の座り方」を学びました。父親は、けむりがこなくて、あたたかい場所に座ります。それに対して、子供は、けむりもきて、とてもさむい場所に座らされていたようです。このような話を聞くと、今の生活がとても幸せということに気づきました。

※太平洋戦争前までは、女よりも男が上、家族では父が一番上という日本の社会でした。

「妻籠馬籠ハイキング」

I組 豪晟

妻籠馬籠に行きました。学校について、バスに乗りました。馬籠からスタートしました。坂ばかりだったけど、がんばって上りました。やっと男滝・女滝につきました。すごい絶景を見ながらの昼食を食べた後、妻籠に向かってまた歩き始めました。妻籠について、五平餅を食べました。その後、学習ポイントでいろいろなことを知りました。今度、家族で妻籠・馬籠に行きたいです。

※えっ、妻籠に着き、学習する前に食べちゃったの？ 気持ちはわかるけど…

この行事で身につけた力を今後の学校生活で生かしていきたいと思います。

